

## 自己評価票（3階用）

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年事業計画作成。事業方針の中で、地域密着型サービスとしての理念を入れている。</li> <li>・ 品質方針をスタッフ控室に掲示している。</li> </ul>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の町内会総会にてホームの説明。</li> <li>・ 地域に積極的に向き、利用者との関わりを実践する中で、理念の啓発に努めている。</li> </ul>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さつまいも収穫に近所の方々にもボランティアで参加していただき、近隣住民へさつまいも等を差し入れる。</li> <li>・ バレンタインデーには手作りチョコを地域のお世話になっている方（公園管理人等）に配る。</li> <li>・ 散歩時、地域の方々には積極的にあいさつと言葉かけを行っている。</li> </ul>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の盆踊り、運動会、野崎参り、農業祭、秋祭り、地車曳き等の地域の行事に参加し交流を深めている。</li> <li>・ 自治会の集会へ職員(主に管理者)出席。</li> </ul>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の老人会における認知症研修開催を予定。</li> <li>・地域の自治会に加入し活動にも参加し、気軽に相談していただけるような窓口として案内している。</li> <li>・地域の秋祭りには、地域の方の休憩場所として敷地内駐輪場を提供している。</li> </ul>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主点検表及び自己評価表を全職員で作成。</li> <li>・改善点についてはミーティング等で報告し具体策を検討し早期に対応。</li> </ul>		
8 運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議において、利用者、家族の意見・要望を聞いたり、利用者の日常生活の様子をビデオで観ていただく機会を設けています。</li> <li>・外部評価の結果の公表も行っています。</li> </ul>		
9 市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度改正に伴い不明な点等、気軽に市に相談している。</li> <li>・認知症サポーター養成について協議中。</li> </ul>		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内での伝達研修実施している。</li> <li>・正面玄関に、いつでも誰でも閲覧しやすいようにパンフレット等設置している。</li> </ul>		
11 虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部研修会にて虐待について周知している。</li> <li>・何かあれば随時、連絡事項にて周知し速やかに対応している。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中で利用者の言葉や態度から気持ちを理解するように努力し、又言葉に表せれない方は色々とし表情を見て嬉しそうなお事、嫌がる事を見極め職員間周知し本人の意向にそった援助を行っている。</li> </ul>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3ヶ月に一度、日常生活での写真に職員の手書きのエピソードを加え便りにて家族に報告している。</li> <li>利用者で記入可能な方は自筆で家族宛に思いを書いていただいている。</li> <li>便りの中でも家族の意見等も記入していただいている。</li> </ul>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フロア入口に苦情・相談・要望を受け付けるご意見箱を設置。又、面会時、日頃の様子を職員からお伝えしコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気作りを心がけている。</li> </ul>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から職員とコミュニケーションを図るようにし、疑問点、要望等を聞き出している。</li> <li>定期的にアンケート調査、個人面談を実施。</li> <li>毎月1回、業務改善会議等にて職員の意見を聞き反映するように心がけている。</li> </ul>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者と職員とのなじみの関係作りの為に、各ユニットの職員をある程度固定化している。</li> <li>ほぼ毎日、フリーの職員を置き、手厚い勤務体制を確保している。</li> </ul>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、各ユニットの職員を固定化し、なじみの関係づくりに努めている。職員入れ替わり、退職時、異動時は時期を見て説明している新しい職員の紹介もきちんと行い、利用者より色々と教えてあげて欲しい事を伝えている。</li> </ul>		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内毎月の研修、外部研修にも参加できるように配慮している。</li> <li>・研修等に参加していない職員へも報告書、口頭にて周知している。</li> </ul>		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣グループホームとの相互の見学実施。意見交流を図っている。</li> <li>・同法人ケアマネ採用時、在宅サービス体験ありグループホームでの実習受け入れている。</li> </ul>		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段からコミュニケーションを積極的にとるようにしてる。</li> <li>・個人面接時、体調面、不満、苦情等を聞き取っている。</li> <li>・年2回ストレスチェックを実施し、職員の気持ち、体調面を理解し、改善できるように心がけている。</li> </ul>		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりの得意分野を活かせるようにしている。日々の業務態度なども観察し、面談を行うなどして、個々の意見を聞き、評価し、アドバイスしている。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族からの情報の聞き取り、生活習慣、困っていること、興味のある事の情報収集を行い、本の思いを尊重しをスタッフ全員共有できるようにしている。</li> </ul>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族からの情報の聞き取り、生活習慣、家族の困っている事、他のサービス利用時の様子、本人の思いを聞き取り信頼関係に繋げている。</li> </ul>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の思い、家族の思いを優先し、他職種との連携をとり必要なサービスが利用できるようにしている。</li> </ul>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人や家族に見学してもらったり、職員が利用者の自宅へ行き、色々話しをするなかで安心する信頼関係を築く。最初は混乱される事を想定し人員を増員したり、不穏になられる夕方～夜間帯に増員調整し、安心して過ごしていただけるように努めている。</li> </ul>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p data-bbox="226 357 607 384">本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p data-bbox="136 453 174 480">27</p> <p data-bbox="203 555 712 671">職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p data-bbox="748 320 1330 555">・日常生活において家事、レクレーションを中心に利用者の得意なこと、生活の知恵等を職員が教わっている。例えば調理方法、洗濯干し、洗濯たたみ、掃除の仕方、園芸、農作業、干し柿の仕方、布ぞうり、編み物等。生活の中で意欲を出せるように支援している。職員のマフラーを編んでくれたり赤ちゃん人形の服を編んでくれたりしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と面会時、電話連絡の際、情報を密に行っている。</li> <li>・行事にも家族参加していただき、得意な歌等を披露していただいている。</li> </ul>		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と一緒に旅行、墓参り、里帰り等家族と一緒に過ごす時間を増やしている。</li> <li>・面会や電話連絡時に日常の様子を報告、相談しより本人の思いに近づけるよう支援。</li> </ul>		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住み慣れたなじみの場所に行きなじみの知人に会って話しをしたり、行きつけの美容室に行っている。</li> <li>・家族、友人と電話で話したいときに話せるようにしている。</li> </ul>		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合う方々と楽しく過ごす時間を過ごし、より良い関係づくりに努めている。</li> <li>・人のお世話が好きな方に他の利用者のお手伝いをさせていただく等して、助け合う関係づくりに職員が配慮している。</li> </ul>		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約終了しても、利用者の見舞いに行ったり、訃報をきけば葬儀に参列している。</li> <li>・退居者の家族より近況についての連絡もある。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく本人がやりたい事、行きたい所等は希望をかなえるようにしている。</li> <li>・言葉に出せない方等、色々とアプローチし本人の表情の良い事を進めたり、家族よりの情報を得ている。</li> </ul>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、親戚、知人等からの情報を得ている。</li> </ul>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の行動から睡眠、排泄、体調の変化等を把握するように支援している。</li> <li>・本人のできる事、やりたい事を把握し支援。</li> </ul>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、家族の希望を取り入れて反映している。</li> <li>・本人の生活歴、こだわり、望む生活を取り入れ介護計画書を作成している。</li> </ul>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の変化や状況が変わればその都度、職員で話し合い、本人、家族の意見を元に新たな介護計画を立てています。</li> </ul>	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の状態変化は生活記録、職員連絡事項にて職員間での情報を共有している。</li> <li>・食事、水分、排泄等は利用者状態に合わせて、ファイルに記入している。</li> <li>・センター方式活用し睡眠、生活リズム、心と身体の気持ち等各シートを活用し利用者本位での情報を職員間、共有するようにしている。</li> </ul>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空きベッドがある場合、緊急時対応としてショートステイの受け入れを検討中です。</li> </ul>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の消防署と避難訓練を実施して色々と教わったり、地域の学生(小・中・高校生)との福祉体験を実施している。</li> </ul>		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、家族の意向があれば他のサービス事業所との話し合いを行っている。</li> </ul>		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ、対象利用者が存在せず、特別なかわりなし。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医による定期的な往診あり。24時間連絡可能な体制にある。</li> <li>・内科1回/週、歯科2回/月、口腔ケア4回/月、眼科1回/月往診あり。連携をとっている。</li> <li>・利用者概ね全員に主治医あり、気軽に相談している。</li> </ul>		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・症状、状況変化に対しての対応方法をかかりつけ医（24時間体制）に相談している。</li> </ul>		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員を配置。朝、夕の申し送りに利用者の状態を報告。</li> <li>・状態の変化や急変時には、かかりつけ医に連絡を取り指示を仰いでいる。</li> </ul>		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡を密にし対応。書面にて伝達する事もあり</li> <li>・家族からも服薬方法や次回通院日程等必ず確認するよう周知徹底している。</li> </ul>		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に指針の説明を行い理解を得ると共に、利用者の状況をこまめに家族へ連絡。</li> <li>・かかりつけ医とも密に連携をとっている。</li> </ul>		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退居基準の明確化、ターミナルケアの理解、対応方法の検討について会議を開催している。</li> <li>・かかりつけ医とも密に連携をとっている。</li> </ul>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・転居時、本人・家族の意向を元に決定し、転居先との情報交換を行い、本人のダメージを最小限に出来るよう支援します。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・日々の介護場面でも、個人に対する尊厳の気持ちで接する対応を心がけている。 ・研修会等でプライバシーに関する職員の意識向上に努めている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・日常会話の中で、個々に声掛けをし、一つ一つの作業・行動において必ず声掛けし本人の了解を得たり、これで良いか確認しながら意思表示していただくように支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者一人ひとりに合わせたペースで急がず事なく支援しています。本人の気持ちを優先している。 ・その日の利用者の健康状態や天候等に合わせ臨機応変に取り組んでいる。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・洋服は本人の好みで選択していただき、外出時は鏡を見ながら本人に確認をとり、お化粧品や髪型、スカーフ等で本人の好むおしゃれを支援している。 ・昔からの行きつけの美容室に家族と共に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食、昼食のみホームにて調理しています。苑の畑で収穫した野菜も調理しています。</li> <li>・利用者の誕生日には本人の好みを聞きメニューに組み込んでいる。</li> <li>・朝食時等はお粥、パンで選択して頂き提供している。他にもメニューの要望があれば組み込んでいる。今年のおせち料理はホームでの手作り提供。</li> </ul>		
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の嗜好品を買物時に一緒に購入し、居室、冷蔵庫等で管理している方もいる。</li> <li>・毎月、外食会を計画してできるだけ希望を叶えている。お酒好きな方は行事（新年会、盆踊り、クリスマス会）等に提供している。</li> </ul>		
56 気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の排泄パターンを把握し声掛けしトイレ誘導行なっている。又、ナースコールにて気軽に声をかけていただけるように配慮している。又訴えが出来ない方にはサインを早めに把握し、さりげなくトイレ誘導行なっている。トイレの場所もわかりやすく表示し気持ちよく使用していただけるよう清掃、整備に心がけている。</li> </ul>		
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴は基本的に3日に一回入浴していただいている。希望者は2日に一回入浴を提供している</li> <li>・本人の希望日、時間等の要望通りに本人のペースを大切にしながら取り組んでいる。</li> </ul>		
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの体調、表情、日中の動き等、本人の希望を考慮している。</li> <li>・室温調整、照明の調整、入眠時間、起床時間、排泄時間等把握し巡回時等、こまめに確認。</li> </ul>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のできる事を把握し、食器洗い、調理準備、調理盛り付け、洗濯干し、洗濯たたみ、居室掃除、廊下の掃除等、本人の気持ちを優先し取り組んでいただいている。</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小額（一万円まで）のお金を持っている方も居られ、各自にて管理している。</li> <li>・買物時、本人の好きなもの（おやつ等）を購入してもらい、お金の支払いもなるべく自分で行ってもらっている。</li> </ul>		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣散歩は天気がよければ殆ど毎日出かけている。</li> <li>・ドライブ、スーパーやデパートに買い物等利用者の要望に沿った対応を行っている。</li> </ul>		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が「旅行（温泉）行きたい」と訴えあれば家族と相談し職員付添いの元、（京都）旅行に行く。家族の要望あり孫の結婚式にも職員付添いし出席した。家族の方とも定期的に旅行、食事会、里帰り、温泉等に行っている。</li> </ul>		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室に電話を設置したり、携帯電話を持ち込み本人がかけたいときにかけている。電話のない方も希望があれば通話の支援を行なっている年賀状やホーム新聞でも自筆で今の心境、思いを書いてもらっている。</li> </ul>		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来所されたときは笑顔で受け入れ明るく気軽に話しやすい雰囲気作りに努めている。リビングや自室等で好きな場所で過ごせるように配慮。</li> <li>・本人、家族にもお茶を提供しゆっくりとくつろいでいただいている。</li> </ul>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束廃止にかかるマニュアルを作成し周知</li> <li>・身体の動きの制限だけでなく、言葉も身体拘束になり得ることを周知。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関やベランダ、エレベーター等スリーキーにて管理している。</li> <li>・1階事務所でも、エレベーター内モニターチェックや下りて来られた利用者への対応を行っている。</li> <li>・利用者の外出希望、出口探している様子あれば職員付き添いの元外出するようにしている。</li> </ul>		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中は、フロア職員が見守っているが死角で見えにくい所は、定期的に居室に訪室し、安心・安全に生活できるように支援している</li> <li>・業者・家族の面会時など、エレベーターと一緒に乗らないよう見守りと、エレベーター内にも注意事項を記載し、協力して頂いている。</li> </ul>		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険物の管理は明確に定めている。</li> <li>・包丁・洗剤・薬等の危険物、薬剤は必ず鍵をかけ、管理している。</li> </ul>		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故報告書・ヒヤリハット報告書をもとに原因、改善策を早急に検討し全職員に周知している</li> <li>・職員一人ひとりが、危険予測を考え事故が起こる前に細かい情報を共有出来るようにしている</li> <li>・本部へ毎月事故報告書提出。</li> </ul>		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対応について、看護職員より定期的に研修会を実施し、体験しながら習得している。</li> <li>・マニュアルを作成し緊急時の対応を周知徹底している。</li> </ul>		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防訓練を年に2回行っている。</li> <li>・災害に備え、水・米等を各ユニットで備蓄しています。</li> <li>・1階厨房食品庫に併設事業所の食料品を保管しており、災害時に活用できるようにしている。</li> </ul>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく、行動を制限せずに本人の意欲を尊重し起こり得るリスクを予測して家族へ連絡、対応策を説明している。</li> </ul>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の利用者状況を把握し、本人の訴え・食欲・顔色・排泄物・表情・様子等から変化がある時は、些細な事でも職員同士が共有し、バイタルチェックを行ったり、看護師に連絡し対応。</li> <li>・状態変化についてはPC内にて記録し管理。</li> </ul>		
74	服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの服薬ファイルを作成し、職員が把握できやすいようにしている。</li> <li>・服薬時は、日付・名前を声に出して読み、間違いのない様にし口腔内を確認し服薬確認もきちり行っている。(服薬4原則徹底)</li> <li>・薬箱へ入れる際は、看護師と介護職員で確認。</li> </ul>		
75	便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分を多めに摂って貰ったり、繊維物・乳製品を多く摂取してもらう等、生活でのり八ビリ、体操・散歩等で運動して頂き、出来るだけ自然排便出来るように支援している。</li> <li>・下剤服用は、それぞれの状態に合わせた使用量頻度で調整し薬にはあまり頼らないようにしている。</li> <li>・排便状況の把握に努めている。</li> </ul>		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけの歯科より、口腔ケアを週に1回来て貰い、口腔内を検査ケアしている。</li> <li>・毎食後、歯磨きの声かけを行い職員が見守り最後に、糸楊枝ですき間の掃除を行ったりしている。</li> <li>・出来ない方には、介助行ったり口腔内ガーゼにて清拭・うがいなど行っている。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>77</p> <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養バランスについては施設内の栄養士作成のメニューで調理し提供している（昼、夕のみ）</li> <li>・ 嚥下困難な方、食の進みが悪い方等にはお粥、おにぎり、ミキサー食、きざみ食、トロミ食等で提供している。</li> <li>・ 水分摂取量も少なめの方のみ、チェック表に記入し好みの水分、すすみの良い時間帯を把握し水分補給に努めている。</li> </ul>		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症に対する予防・対応として(特にノロウイルス対策)マニュアルを作成し、周知している。</li> <li>・インフルエンザ予防接種は、本人、家族の了解を得て実施。職員も全員予防接種受けている。</li> </ul>		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まな板、布巾等はほぼ毎日、漂白し台所の周囲も清潔・衛生を保っている(消毒徹底)</li> <li>・冷蔵庫はリスト上げ日に点検・整理行い、在庫がある時にメニューに組み込み無駄がない様に工夫している。</li> <li>・リスト上げの時、在庫出にくいように必要数のみ記入して買出しに行く。</li> </ul>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関にプランターを置き、入り口には花を生けて明るい雰囲気や季節感を演出している。</li> <li>・入口やエレベーター前に分かりやすく表示。</li> <li>・入口付近にある面会簿横に飴を置き、子供も来やすくしている。</li> </ul>		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂やリビングも採光もよく、ソファや絨毯を設置しくつろいで過ごしていただけるように努めている。</li> <li>・フロアには四季を通して楽しめる雰囲気や利用者や職員と一緒に取組んでいる。</li> </ul>		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングの絨毯の上にソファを置き、気の合う者同士でお茶を飲みながらくつろげる空間を提供している。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・自宅で使っていた、なじみの家具、食器、 テレビ、ポット、家族の写真等を持ち込み 本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。		
84 換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・居室等は、起床後より換気している。 ・冷暖房をつけっぱなしにせず、こまめに温度 調節行っている。 ・トイレ・浴室・汚物室・居室・台所・すべて 換気扇を常時つけ、トイレ・廊下には消臭剤 を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・洗濯物干しの際、物干しの高さが高い方には 布団干しを活用し、干して頂いている。 ・廊下・トイレ・浴室に手すりを設置し、自立 への配慮をしている。 ・身体機能に合わせ、車椅子・歩行器貸し出し 可能。		
86 わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・居室にプレート(写真付き)、トイレには標識 、浴室には暖簾を掛けて一人ひとりが、混乱な く場所が分かるように工夫している。		
87 建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・建物の周りに小さな畑を季節ごとに変えて作 り、ほうれん草・イチゴなど利用者が育て食す 事に楽しみを持っている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の一員として地域行事に積極的に参加し、地域交流を深めています。

利用者、職員がいつも生き活きとしており明るく笑顔の多い職場。

個々の生活スタイルに合わせ利用者と職員が助け合いながら生活する。

常に利用者の気持ちを尊重し利用者のあるがままの姿を受け入れいつも一緒に喜怒哀楽を共にしている。

家族も気兼ねなく来苑してもらええる雰囲気作りをしている。